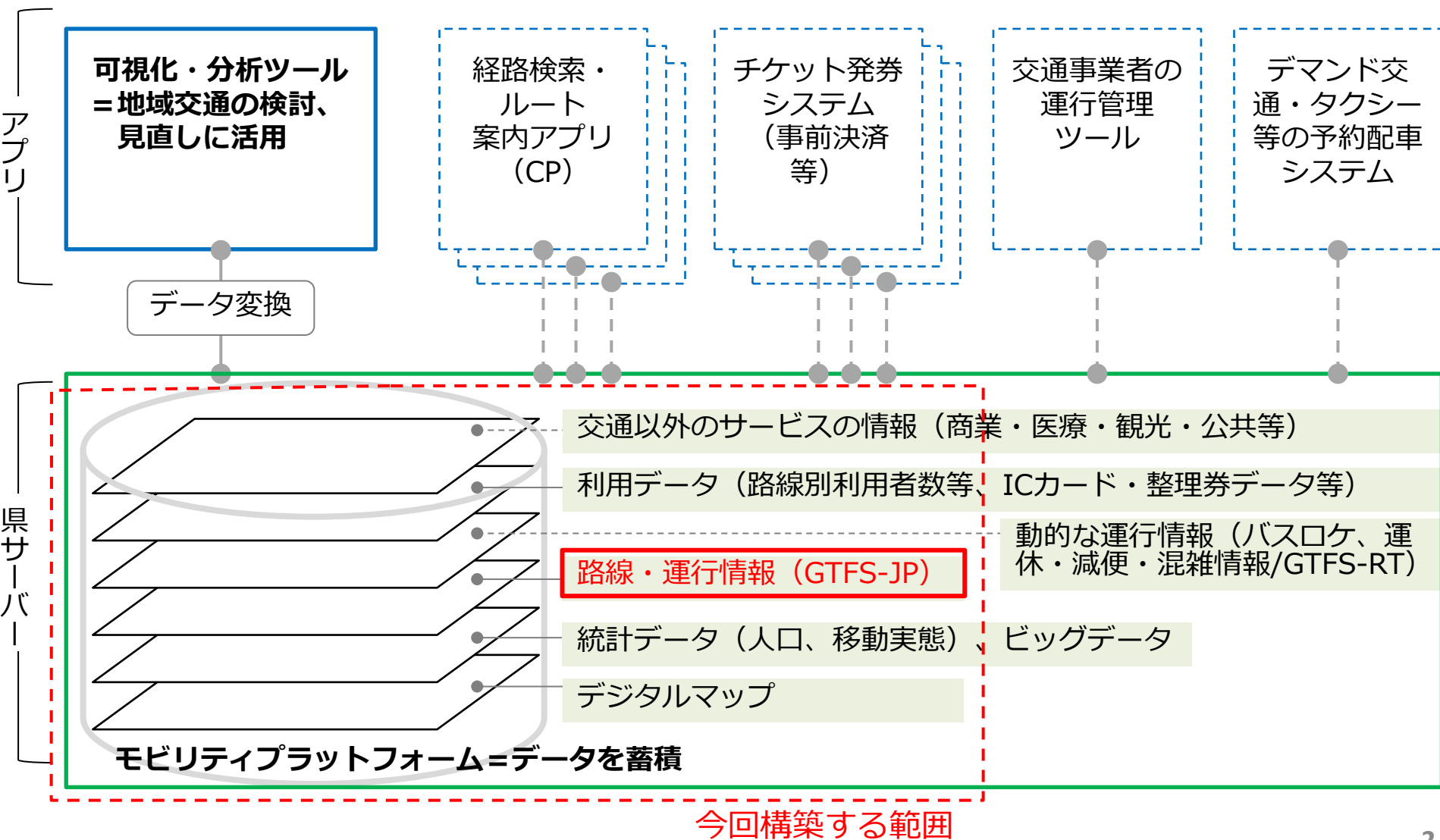


山形県地域公共交通の プラットフォームについて

■プラットフォーム構築の全体像

- 県内の公共交通に関わる統計データや交通サービス情報（静的データ/GTFS-JP）を整理・作成し、県サーバー上にデータ蓄積



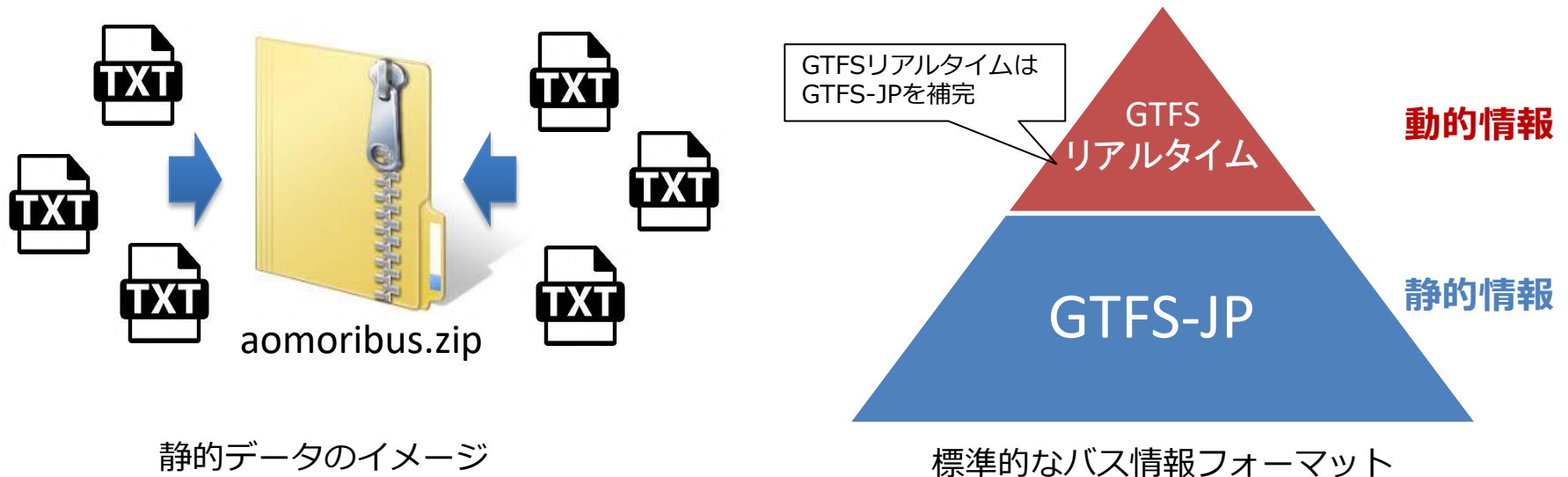
■ 公共交通の運行情報のオープンデータ化とは

○ GTFS-JP及びGTFS-RTとは

- バス事業者と経路検索等の情報利用者との情報受渡しの為の共通フォーマット

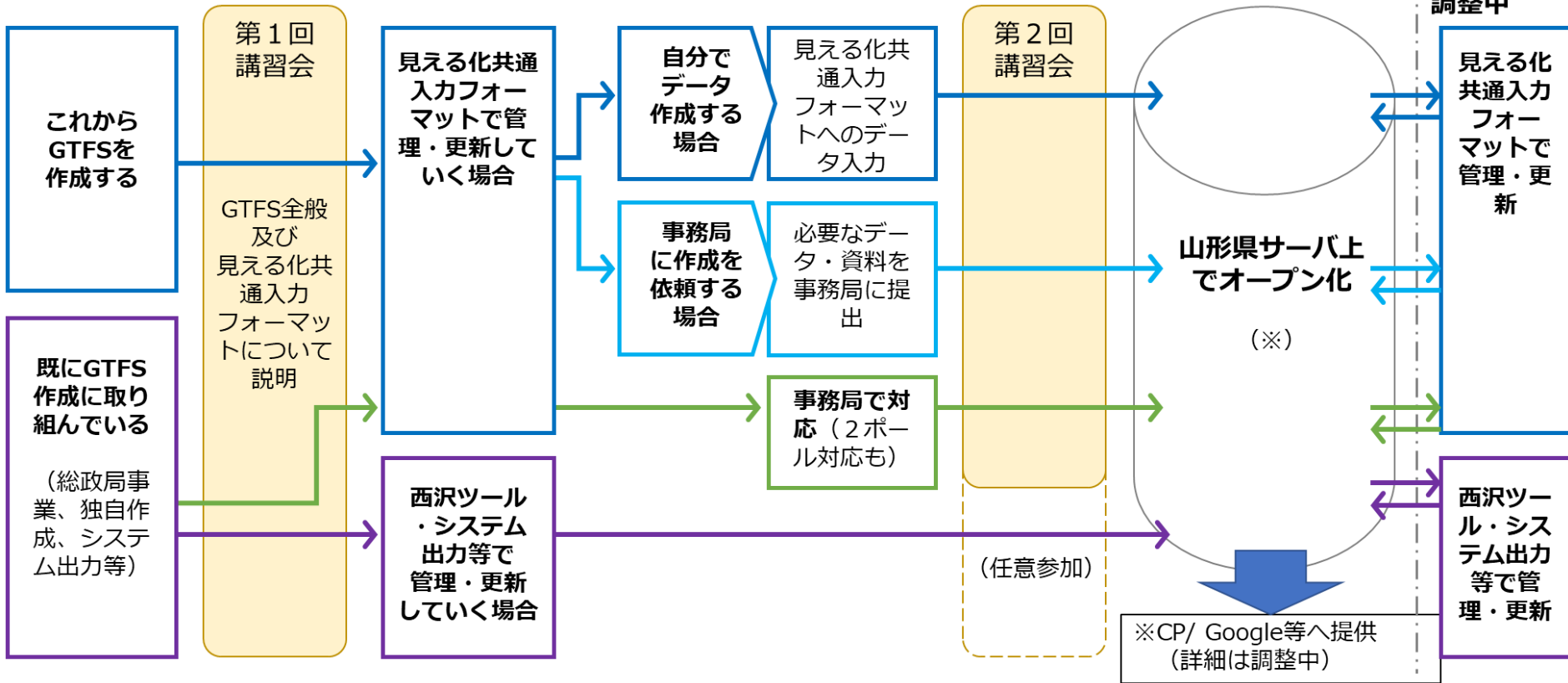
標準的なバス情報フォーマットの特徴

- 国土交通省によって制定
- バスの運行に係るデータ（停留所、時刻表、運賃等）の共通フォーマット
- 静的データ(GTFS-JP)と動的データ(GTFS-RT)の2種類が存在
- 経路検索サービス(MaaSアプリ含む)や地図サービス提供事業者への情報提供時に利用
- 最近では、バスロケの基礎データ、地域交通網の可視化など、利用用途が拡大
- 世界的に公共交通のオープンデータとして定着しているデータ形式「GTFS」に準拠



山形県オープンデータ化の進め方

R2の作業の進め方



■ 山形県公共交通情報共有基盤

(やまがた公共交通オープンデータプラットフォーム)

○ 関係者のルーチン作業で、データの収集と更新を確保

- 扱うデータの種類や関係者の役割を計画に記載し、データ利活用をルーチン化

データ収集の具体的な流れ

- データ保有者から事務局にデータを提供（又は提供可能なデータリストを提出）
- 事務局は、プラットフォームにデータを掲載
- リストのみ掲載される二次利用可能データについては、申請に応じ事務局から提供
- 【計画で明記】データ保有者（民）：データの提供・自社関連の国データの提供同意
- 【計画で義務化】データ保有者（官）：データの提供・自社関連の国データの提供同意
- 【計画で明記・義務化】事務局：データの管理・二次利用申請の処理・データ鮮度の確認・データ提供を容易化するフォーマットの整備 等
- 【計画と連動】県の支援など、公的支援を受けるデータ保有者については、データ提供協力を支援の要件化

■ 山形県公共交通情報共有基盤

(やまがた公共交通オープンデータプラットフォーム)

○ オープン化の段階を分けて、機微な情報も活用

- 扱うデータの種類ごとに段階を分けてオープンデータ化し、経営情報や個人情報に関わる詳細なデータの提供も活用可能に

山形県の公共交通のポータルサイト

- 事務局（県）が、オープンデータや協議会の資料、関連リンク等を一覧できるWebサイトを作成



オープンデータ（完全オープン）

- 路線バスのGTFS化情報等は、県のサーバーに逐次保存し、県ポータルサイトで公開
- 一部の既にGTFS化・公開されている事業者や航空発着情報等はリンクを掲載

二次利用可能データ（クローズ利用）

- 事業者の経営に関わる情報や個人情報が含まれるデータは、「二次利用可能データ一覧（仮）」として、データ名称・概要・データ項目等をリストアップ
- 市町村や大学等の研究機関などからの申請を受けて、事務局から個別に提供
- 申請の審査・提供に際しては、データ提供元との利益競合、公益性、データ保管の能力等を事務局で審査